

町史

つとのおきの話

190

長崎大学教授（森林総合研究所共同研究者）

吉田 謙太郎

オオクワガタ

日本には12属39種のクワガタムシが分布しています。釣りの

世界では、「鮎に始まり鮎に終わる」と言われるように、クワガタ飼育の世界でも「黒虫（オオクワ）に始まり黒虫に終わる」と言われます。バブルの頃は黒いダイヤとも言われ、大きな個体は100万円以上で取引されました。1999年に外国産クワガタムシの輸入が解禁されて以来、子供達の間でのオオクワ人気は低下したものの、マニアの間ではいまだに最高の人気を誇る至高のクワガタムシです。

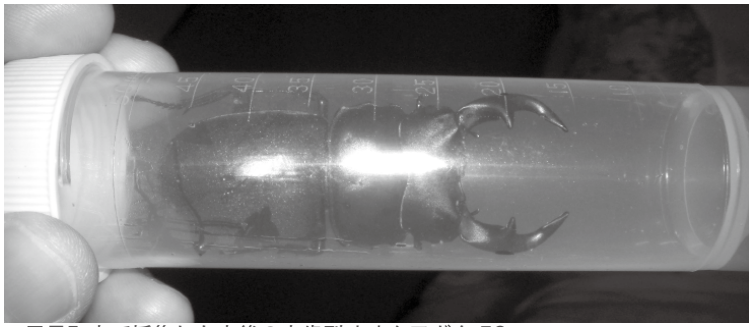
日本でも有数の採集場所である只見町において、オオクワガタは身近な昆虫かもしれませんが、全国的にはとても貴重な昆虫です。環境省のレッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類として掲載されています。北海道から九州に至るまで分布しているながら、分布が点的であること、そして臆病な性質もあり、野外では滅多に見かけることのない幻の昆虫です。私自身、只見町で初めて天然オオクワガタのオスを採集し、クワガタ専門店に展示しましたが、店長をはじめとしてそこに集うマニア達は、初めて見る天然オオクワガタの魅力に言葉を失いました。

府能勢町や山梨県韮崎市など有名です。これらの産地は、主に里山の台場クヌギなどの南会津場所ですが、只見町などの南会津地方ではブナやミズナラの天然林が卓越している地域に分布するとうい違いがあります。前者では、発生源や生息場となる樹木が採集者に特定され、材割採集による幼虫採りや樹洞への煙幕投入などの非持続的採集法により、個体数は激減しています。南会津でも、以前には重機で枯れ木ごと持ち去る不届き者もいたようです。

南会津では、強力なライトを投光するライトトラップ、または街灯下を見回る採集方式が主流です。灯火めがけて飛来したオオクワガタを採集するという点では採集圧の低い方法ですが、民家の近くで夜中に強力なライトを照射するのは迷惑行為です。布沢や南会津町でライトトラップが禁止されているのは、平穏な生活環境と自然環境を守るために必要な自衛手段です。その一方で、地元の民宿・旅館に宿泊した人に限り参加できるライトトラップが高畑スキー場で開催されているように、集客効果を狙ったイベントとして地元が利用することも可能です。

オオクワガタは素人でも簡単に飼育、繁殖でき、昆虫ショップ以外にもインターネット・オークションで盛んに売買されていることから、普通のオオクワガタの価格は暴落しています。大型の個体、雑誌の美形オオクワコンテストで入賞するような個体、または外来種との交雑が疑わしい極太の大顎をもつ異形個体が人気を集めています。

天然オオクワガタが一般に販売されることは滅多になく、多くのマニアにとって、天然個体を自分自身の手で採集することは究極の夢です。只見町がその夢を叶えられる貴重な産地である以上、過剰な採集圧にさらされる危険性と常に背中合わせです。秩序ある採集による個体群の維持は、森林生態系保護の観点からも重要な課題です。過剰な採集圧や生息環境の破壊だけではなく、他産地の人工繁殖個体や外来種との交雑個体の放虫などには今後も十分に留意する必要があります。



▲只見町内で採集した直後の中歯型オオクワガタ 56mm



▲菌糸瓶で育つ只見産オオクワガタの幼虫